

## 第 6 次豊橋市総合計画分野別計画 令和 5 年度取り組みまとめ

令和 5 年度は、新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に移行したことにより社会活動が戻りつつも、エネルギー・食料品価格等の物価高騰による影響を大きく受けた年度であった。社会が大きく変化する中、第 6 次豊橋市総合計画の 3 年度目として、これまで先人が築き上げてきた歴史、文化を礎に、新しい生活様式への対応を踏まえ、本市の持つ魅力をさらに高めながら、「未来を担う 人を育むまち・豊橋」を実現するための政策を推進した。

### <主な取り組み（分野別計画）>

#### 1 豊かな人間性を備え、未来を創る人が育つまち

子育てに安心や希望が持てる環境づくりを進めるとともに、豊かな人間性を備え、未来を切り拓くことのできる人材を育むための取り組みを実施した。

子育て支援・児童福祉の充実については、これまでの公立・法人園に通う対象世帯への保育料及び副食費の無償化に加え、市独自に保育料が無償化となる対象を低所得世帯第 1 子まで拡充するなど子育て世帯の経済的負担の軽減を図るとともに、保育士確保のため、市独自の処遇改善や保育支援者の雇用支援など保育環境の充実を図った。

学校教育の推進については、愛知県が推進する「ラーケーションの日」導入に伴う教職員の負担軽減のため小中学校に校務支援員を配置したほか、学校へ行きづらさを感じる市内全小中学校の児童生徒が安心して活動できる居場所「エールーム」を市内 2 か所の中学校に新設するなどきめ細かな支援を推進した。また、4 月から 12 月の間、市立小中学校及びくすのき特別支援学校において給食の無償提供を実施したほか、1 月から 3 月の間は同学校における学校給食費の半額軽減を実施した。また、就学援助受給世帯や給食を喫食していない児童生徒、私立学校等へ通う児童生徒の保護者に負担軽減相当額の臨時給付金を支給した。

その他、のびるん de スクールを全小学校で通年実施し新たな学びの場の拡充を図ったほか、視聴覚教育センターでは、大人向け科学講座の開催やプラネタリウムへの特別席の導入など、子どもから大人まで生涯学習や科学教育に触れる機会を増やした。

#### 2 活みなぎり、はつらつと働けるまち

東三河地域経済のけん引役を担う多様性に富んだ産業構造を形成するとともに、それぞれの夢がかなう働く場があり、柔軟な働き方ができるまちづくりを進める取り組みを実施した。

農漁業の振興については、経営が安定しない就農初期の設備投資へ支援等を行い、意欲ある新規就農者の営農継続を支援したほか、市内飲食店等と農家をマッチングし、豊橋産農産物を使用した新メニュー開発及び提供イベントを実施し地産地消の推進を図った。

商工業の振興については、中小企業の経営基盤強化のため、設備投資や資金調達などの支援を行った。また、物価高騰の影響を受ける中小企業に対して、業態転換や EC サイトの開設などを支援するとともに、プレミアム付電子商品券の発行や商業イベントへの支援など様々な消費喚起策を実施した。

その他、本市の農業者等と全国の有望な農業系スタートアップが連携し、新製品・サービス開発を目指す実証実験を実施したほか、スタートアップと、そのチャレンジを応援する地域事業者等からなるコミュニティメンバーを増やし、連携を充実させた。また、地域産業を支える人材育成のため、労働安全衛生法に基づく各種講習等の利用拡大に向け、とよはし産業人材育成センターの環境整備を行った。

### 3 命の安全、心の安心が確保されたまち

大規模自然災害などへの備えを誰もが実践するとともに、市民生活に深刻な影響を及ぼす非常事態にも負けない、強靱で回復力のあるまちづくりを進める取り組みを実施した。

危機管理の強化と防災対策の推進については、災害情報共有システムの機能強化や災害時の円滑な避難誘導を図るための誘導標識を更新したほか、若者を対象に防災意識の向上を図るためアオハル防災キャンプ（体験型防災訓練）を実施した。

消防・救急救命体制の充実については、令和5年6月2日の大雨被害を踏まえた水害対策用資器材の強化や、特殊水難救助隊を発足し水難救助体制の強化を図った。また、増え続ける救急需要に迅速に対応していくため、ICTを活用した救急需要予測システムの検証を開始し、救急車の最適配置を含む救急救命体制の効率的な運用を検討した。

その他、地域防犯力の強化として、自治会等へ防犯カメラの設置及び防犯灯の設置・維持に係る補助を行ったほか、高齢者がオレオレ詐欺や還付金詐欺等の被害にあわないように、特殊詐欺対策装置の設置に係る補助を実施した。

また、動物愛護管理の推進のため、「豊橋市動物愛護センター（仮称）整備基本計画」に基づき、整備予定地の用地取得や地質調査を行うほか、建設工事に向けての実施設計を行った。

### 4 みんなで支え合い、笑顔で健やかに暮らせるまち

健康・福祉サービス体制の整備を進めるとともに地域の絆を育むほか、地域医療体制を強化し、安心できる保健医療を提供するための取り組みを実施した。

健康づくりの推進については、野菜摂取を促すため、ICTを活用したモデル校区での栄養調査や小学校での食育授業等を行ったほか、がん検診と特定健康診査の受診率向上のため、健診の同時実施の会場を増やし、受診しやすい体制を整備した。また、新型コロナウイルス感染症の5類移行後の相談、医療提供体制等について周知啓発を行ったほか、帯状疱疹の発症・重症化予防のため、ワクチン接種費用の一部助成を新たに開始するとともに、子宮頸がん予防ワクチン接種について、経過措置対象者を含む全対象者に周知啓発を行った。

医療の充実については、豊橋市民病院において、今後の新興感染症等の流行に備え、陰圧の個室10床に加え診察室やエックス線撮影室を備えた感染症病棟を整備したほか、医療DXの基盤となるマイナ保険証の利用の促進を図るため、オンライン資格確認システムの認証用端末を増設した。また、災害時に必要な情報を収集・分析し、被災状況・被災者のニーズに合った保健医療を提供するために災害時専用アプリをインストールしたタブレットを導入したほか、関係機関との情報連携を強化するため、被災状況に左右されず通信可能な衛星インターネットを整備した。

高齢者福祉・介護保険の充実については、地域での介護予防を推進するため、運動自主グループの立ち上げ支援や体操リーダーの養成を行ったほか、ICTを活用したフレイル予防講座を開催した。また、高齢者の居場所づくり等を行う団体の活動促進を図るため、運営に係る経費の補助やアクティブシニアの活動について市民に広く周知を行った。

その他、課題を抱えながらも自ら支援を求めることができない世帯に対して伴走型の支援を行うなど地域福祉の充実を図ったほか、生活自立の支援について、物価高騰に苦しむ市民の暮らしを支援するため住民税非課税世帯等に対する支援給付金を迅速に支給するとともに、新たに配置された家計改善支援員が生活保護世帯や生活困窮世帯に対し家計管理に関する支援を行った。

## 5 互いを尊重し合い、心豊かに暮らせるまち

歴史や芸術文化、スポーツなどにふれあうことができる環境を整えるとともに、多様な価値観を認め合うことのできるまちづくりを進める取り組みを実施した。

芸術文化の振興については、年齢や障害の有無等にかかわらず誰もが芸術文化に触れる機会を創出するため、アーティストなどによるワークショップを小中学校や特別支援学校にて実施した。

スポーツの推進については、スポーツ環境を充実させるため、屋内プール・アイスアリーナの長寿命化工事を行ったほか、総合体育館の改修に向けた基本・実施設計を行った。また、多目的屋内施設等整備に向けて多目的屋内施設及び豊橋公園東側エリア整備・運営事業の入札公告を行った。

美術の振興と歴史文化の継承については、美術博物館をリニューアルオープンし、2階フロアを歴史エリアとして刷新し公開したほか、二川宿本陣資料館では、文化財保護のため土蔵の漆喰塗替え修繕を行うとともに、展示環境の改善や来館者の利便性を高めるため、資料館部分の長寿命化に向けた改修工事に着手した。

国際化・多文化共生の推進については、外国人市民も安心して行政サービスを受けられるよう、通訳者や31言語に対応できる多言語通訳タブレットにより外国人市民相談を実施した。また、外国人の子どもたちへの日本語学習支援として、就学前の幼児を対象とした教室（通称：プレスクール）や外国人中学生等アフタースクール事業などを行った。加えて成人向けに、安定的な就労につなげることを目的とした日本語教室を実施した。

その他、パートナーシップ制度の宣誓者がより安心して宣誓に臨めるよう、オンライン宣誓の受付を開始するとともに、愛知県内の18自治体で、宣誓者の転出入時における負担を軽減するための自治体間連携に関する協定を締結した。また、女性活躍の推進や女性の就業を促進するため、資格を取得した際の費用の補助や再就職支援事業などを実施した。

## 6 魅力にあふれ、いきいきとにぎわいあるまち

新たな魅力の創出や既存資源の磨き上げ、にぎわいのある中心市街地の形成など、多くの人から選ばれるまちづくりを進める取り組みを実施した。

まちなかの活性化については、再開発事業を行う豊橋駅前大通二丁目地区、豊橋花園商店街地区の施行者に対し助成等を行い、再開発事業の促進を図ったほか、駅前大通りの一部（emCAMPUS 周辺ほか）で、誰もが滞留しやすく、歩いて楽しい通りとなるような空間を創出するため、ミニマーケットの出店や緑あふれるベンチの設置など実証実験を行った。

のんほいパークの魅力向上については、夏の恒例イベント「ナイト ZOO」をはじめとした季節イベントの開催により、市内外からの誘客と園内のにぎわいの創出を図った。

観光の振興については、道の駅「とよはし」を拠点とした体験型観光の充実に向けて、新たな観光商品の開発に挑む事業者へ伴走支援したほか、アイアンマン 70.3 東三河ジャパン in 渥美半島や商工会議所青年部東海ブロック大会といった MICE の開催に合わせ、手筒花火の放揚など本市のプロモーションを行った。

その他、豊橋ならではの暮らしの魅力を、名古屋市をはじめとした近隣地域で生活する子育て世帯に伝えるため、広告出稿・配信を実施したほか、豊橋への愛着を深めるため、吉本芸人によるイベント出演のほか、BS よしもと、ティーズ、エフエム豊橋、SNS での情報発信などを実施した。また、「パートナーシティ協定」を締結した福島市と、豊橋市の手筒花火、福島わらじ祭りなど両市の伝統行事を活用した交流事業を実施した。

## 7

### 自然と共生し、地球環境を大切にすまち

豊かな自然を生かした、暮らしに潤いと安らぎのあるまちづくりを進めるとともに、SDGs 未来都市として、経済、社会、環境の調和を図る取り組みを実施した。

気候変動対策の推進については、家庭及び事業者からの温室効果ガスの排出量を削減するため、住宅や事業所への創エネ、蓄エネ及び省エネ設備の導入に対し設置費用の一部を助成し、再生可能エネルギーの普及促進及びエネルギーの地産地消の推進を図った。また、公共施設における民設・民営の太陽光パネル設置（PPA 事業）を引き続き実施した。

資源循環の推進については、市内の小売店等を通じ、雑がみ分別お試し袋を市民へ配布し、雑がみの分別意識の向上を図ったほか、外国人市民に対してもごみの分別やルールを周知するため、ポルトガル語やベトナム語など多言語版のごみ出しガイドブックを作成し、配布をした。また、株式会社ジモティーと「リユース活動の促進に向けた連携と協力に関する協定」を締結し、再生家具販売等を通じて、まだ使えるものを繰り返し使用していく「リユース」意識の啓発を図った。

緑の環境づくりについては、住民の憩いの場として三ツ山公園の整備を行ったほか、地域に愛される公園を目指し、緑の拠点である公園の植栽の維持管理等を行った。また、近年、倒木が相次いでいるため、通常の樹木診断に加え根株の緊急点検を行い、危険性が高い樹木については伐採等を実施した。さらに、持続可能な循環型社会への取り組みとして、資源の有効活用を図ることを目的に伐採木の販売を行った。

その他、豊かな自然環境を保全するため、アカウミガメをはじめとした希少種や在来種のモニタリング調査など生物多様性の保全に係る取り組みを進めたほか、多くの市民に森林と触れ合う機会を創出するため、ボランティア団体による市民ふれあいの森休憩所などの維持管理や遊歩道の草刈などを実施した。

## 8

### 暮らしの基盤が整った、便利で快適なまち

公共交通などの生活基盤を充実させるとともに、まとまりがあるまちづくりなどを進め、暮らしやすい便利で快適なまちを形成するための取り組みを実施した。

都市空間の形成について、居住地の集約を促進するため、歩いて暮らせるまち区域へ定住する人に対し補助金を交付するなど居住の誘導を図った。

交通環境の充実については、公共交通の利便性向上を図るため、バス事業者が実施する路線バスへの交通系 IC カード導入に係る費用の助成を行うとともに、「地域生活」バス・タクシー（コミュニティバス）へのキャッシュレス決済導入の検討を進めた。また、安全で快適な通行を確保するため、老朽化した舗装を打替えることで段差や凹みの解消、道路側溝の改修による排水不良の解消など、道路環境の改善を図った。

住宅環境の整備では、市営住宅の効率的な管理運営を行うため、老朽化した西口住宅 F、G、H 棟を解体し、西口住宅 3 号棟の実設計計を行ったほか、周辺的生活環境に悪影響を与える空家を減らすため、空家所有者等への助言を行うとともに、空家バンクの運営による空家の有効活用及び空家の解体除却費用の一部補助を行った。

その他、上下水道事業の経営の効率化を図るため、令和 7 年度開始の次期水道料金収納業務等包括業務委託で豊川市、湖西市の 3 市で共同発注を実施する協定を締結したほか、下水道施設の計画的な改築・更新を進めるため、ストックマネジメント計画に基づき、管更生工事等を実施した。